技術・家庭部会研究計画

Ⅰ．研究主題

社会に『いきる』技術・家庭科教育
～主体的に生活を工夫し創造する生徒の育成～

Ⅱ．研究目的

１．研究の経過

・平成 23 年度～25 年度

主題を「創造する意欲を高める技術・家庭科教育」とし、言語活動を重視した授業や活動を展開し、その中から「創造する意欲」を高める指導方法を探った。25 年度には全道技術・家庭科研究大会石狩大会において、研究の成果を発表した。

・平成 26 年度～28 年度

主題は継続しながらも、26 年度からは「評価方法」「評価場面」の在り方、特に「生活を工夫し創造する能力」についての研究を推進した。

・平成 29 年度～

北海道技術・家庭科教育共通の研究主題が一新され、「社会にいきる技術・家庭科教育」となった。石教研技術・家庭部会においてもこの研究主題を共有することとした。令和 2 年度全道技術・家庭科研究大会石狩大会での研究発表に向けて、研究を推進した。

・令和３年度～

主題は継続していく。3 年度からは**観点別学習状況の３観点での評価を中心に**研究を推進する。

２．研究主題設定の理由

「社会」とは、最小の単位を「家族」とし、最大は「世界（地球）」と定義し、広義には家庭・地域・世界を含むものである。また、「いきる」は「生きる」と「活きる」の両方の思いが込められている。急激に産業技術や環境が変化する現代社会において、自立と共生・持続可能な社会の構築の両視点を大切にしながら、よりよい社会（家庭生活）を創造していくことができる生徒の育成を目指している。

副主題の「主体的に生活を工夫し創造する生徒の育成」は、「生活課題を把握し、解決に向けて主体的･能動的に探究し、その成果を役立てながら、これからの生活を創造していこうとする生徒**（態度）**の育成」である。

令和元年度に実施した石狩管内中学校の生徒実態調査では、「生活の中で問題を見付けたり、解決しようとしたりする生徒」や「より良い生活を送るために自分で考えたり生活を工夫したりしている生徒」の数値が低い結果となった。これは、「実際の生活の中で、主体的に問題を見付け、工夫し創造しながら解決する力」に課題があると考えられる。新しい研究計画の下、**「技術・家庭における見方・考え方」を通して、**これから自分たちが生活する社会を能動的に創造していくことができる生徒の育成を目指したい。

３．目指す生徒像

◎自立した生活を目指し、これからの生活や社会をよりよくしようとする生徒

◎生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、主体的に生活や社会でいかそうとする生徒

◎生活や社会の中から問題や課題を見付け、その解決を目指して工夫し創造する生徒

４．研究仮設

社会に「いきる」技術･家庭科教育は、問題解決的な学習において、社会とのつながりを意識した思考を重視することと、課題の発見と解決に向けて主体的･協働的に学ぶことで実現することができるであろう。

Ⅲ．研究内容

１．「問題解決的な学習」を取り入れた指導の工夫（題材全体、または１単位時間のいずれでもよい）

問題の発見や解決策について対話的・主体的に考え、協働的に新たな価値を創造し、次への問題の発見・解決につなげる**「問題解決的な学習」**とする。

＜石教研技術・家庭科の問題解決的な学習過程と内容（構造化）＞

	導入			展開			終末
内容（生徒）	課題発見（見直す）	課題設定（つかむ）	→ 評価修正 ←	解決策の方法（見通す）	課題解決・実践活動（創る）	→ 評価修正 ←	評価・改善（振り返る）
重点	「連鎖的思考」			工夫し創造する能力を育む指導･評価の工夫			「まとめ・振り返り」
指導の改善･充実	対話的な学び・主体的な学び			主体的な学び・対話的な学び・協働的な学び			主体的な学び
	深い学び（技術･家庭科の見方・考え方を働かせ、目指す資質･能力を総合的に活用・発揮させる）						

２．「社会（家庭生活）とのつながり」を実感させた指導の工夫

（１）**「連鎖的思考」**の場面を設定する

＊「連鎖的思考」とは、授業の導入・展開・終末で「課題」を「社会（世界～家庭生活）」と関連させながら考えること。１時間の授業が単なる「点」で始まり「点」で終わるのではなく、「社会（世界～家庭生活）」の中から問題を見出し、「線」で結びつけることをねらっている。同時にこれは、主体的で自覚的な学びとなっていく。また終末でも、学習したことを社会（世界～家庭生活）や人生にいかそうとする「振り返り」の工夫が重要である。そしてそれは、「学びに向かう力」を育むことにつながる。

（２）「生活を工夫し創造する**態度**」を育む指導・評価の工夫

①「生徒の思考を広げ・深め、その思考過程が可視化できる」ワークシートの工夫

②学習形態の工夫

③指導方法、評価方法の工夫（３観点）

（３）終末の段階で「まとめ・振り返り」の場面を設定する。

簡単な自己評価や「楽しかった」だけではなく、**「何ができるようになったのか」**、「どのように成長できたか」、「社会（家庭生活）での実践の可能性」や「新たな課題発見」につながるまとめと振り返りを行うことで、主体的な学びとなる。

３．その他

・目標、指導、評価の一体化の一層の充実

・３年間を見通した「年間指導計画」の作成

Ⅳ．研究方法

１．個人研究

（１）「問題解決的な学習」を取り入れた指導実践

①生徒の思考を広げ深める思考過程の工夫（可視化できるワークシートの充実）

②生徒の思考を広げ深める学習形態の工夫（ペア学習、グループでの学び合いなど）

③「生活を工夫し創造する態度」を育む指導・評価の工夫

（２）「社会（家庭生活）とのつながり」を実感させる指導実践

①導入・展開・終末のどこか一段階における「連鎖的思考」の場面設定の工夫

（生活経験・体験、既習事項、既存の技術、**伝統文化**）

②終末の段階における「まとめ・振り返り」の場面設定の工夫（まとめの充実・振り返りシート）

２．内容別研究（教育課程研究）

（１）３年間を見通した「年間指導計画」の作成

（２）小学校との連携のあり方について検討する（技術・家庭）

（３）免許外教諭との連携

３．市町村研究

市町村研究協議会では、授業に役立つ実技研の企画、運営や授業研究（指導案検討）にも努める。

４．専門部会第二次研究協議会

授業公開および研究協議、実践報告、分科会等を行う。

５．実技研修・理論研修

（１）学習指導要領に関わって

（２）技術・家庭分野でそれぞれ実施する。

６．情報の発行

（１）技術・家庭部会情報　　〈　事務局　→　推進委員　→ 全会員　〉

（２）市町村便り　　〈　市町村　→　全会員へ郵送　〉

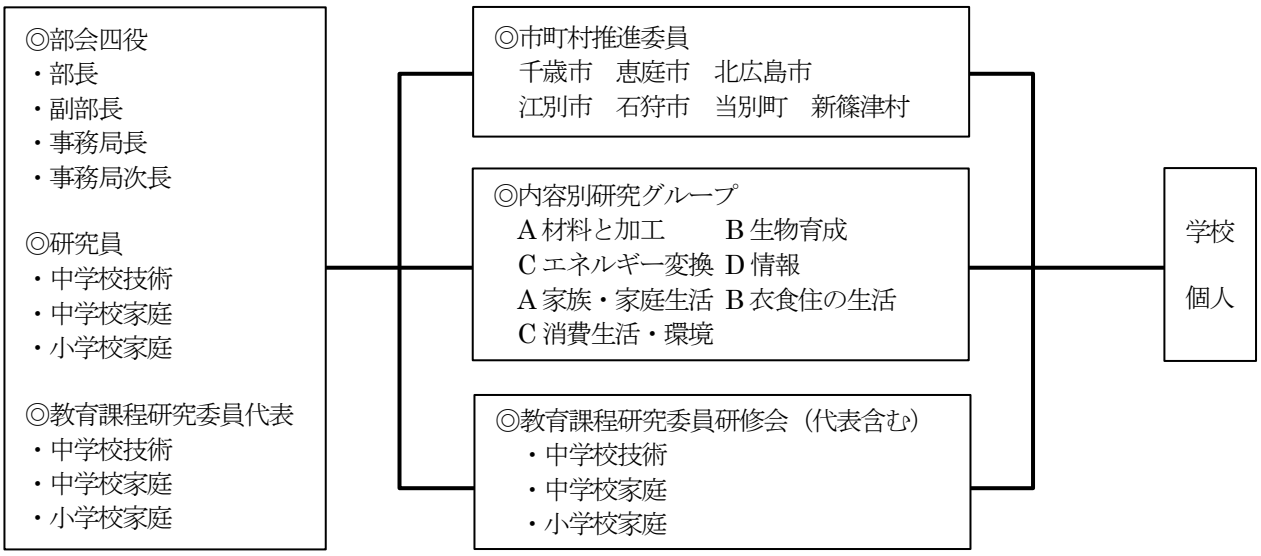
７．各種研究大会との連携

各種技術・家庭科教育の研究組織と連携し、情報の発信や提携を進める。

（１）北海道技術・家庭科研究会　　「石狩大会」（**令和８年度＊予定**）

（２）その他の研究大会

Ⅴ．研究組織



Ⅵ．年間計画

月	活　動　計　画
4	○市町村研究協議会（研究計画・年間計画・石教研体制検討など） ○専門部会第一次研究協議会（技術・家庭部会体制確立、研究推進計画の確立） ○技術・家庭部会情報の発行
5	○市町村便りの発行（北広島市　当別町　新篠津村　江別市）
6	○部会役員研修会・推進委員研修会 ○教育課程研究委員研修会 ○技術・家庭部会情報の発行 ○市町村便りの発行（石狩市　千歳市　恵庭市）
7・8	○技術・家庭部会情報の発行 ○実技・理論研修
9	○部会役員研修会・推進委員研修会（第二次研究協議会実施要綱） ○市町村第二次研究協議会（研究推進状況の確認、全道研に向けて） ○技術・家庭部会情報の発行
10	○授業公開 ○専門部会第二次研究協議会（授業公開、全体交流、研究成果の集約等）
11	○部会役員研究協議会（全道研の反省と今後に向けて）
12	○研究のまとめ ○教育課程研究委員研修会 ○部会役員研修会・推進委員研修会（部会の研究、運営の反省、次年度の構想）
1・2	○技術・家庭部会情報の発行 ○市町村第三次研究協議会（市町村研究の反省、石教研次年度計画の検討）